

令和5年度第2回柏市教育政策審議会会議録

1 開催日時

令和6年1月23日（火）

午前10時から正午まで

2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

天笠会長，寺本副会長，平野委員，伊藤委員，川本委員，遠藤委員，鈴木委員，青木委員，入道委員，少路委員，神田委員，坂本委員，古橋委員（計13名）

(2) 事務局

田牧教育長，宮島生涯学習部長，依田学校教育部上席技監，籠教育総務課長，松澤教総務部次長兼教育政策課長，田村教育政策課副参事，岩本教育政策課主幹，平川教育政策課主事，古谷教育施設課長，大滝教育施設課副参事，糸川教育施設課副主幹，中村教育総務部次長兼学校給食課長，佐藤学校給食センター所長，沖本生涯学習課長，伊藤学校教育課長，染谷学校財務室長，福島教職員課長，中田指導課長，齊藤ICT推進室長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所長，幕内市立柏高等学校事務長（計22名）

4 教育長あいさつ

5 委員自己紹介

第1回審議会を欠席した市立柏高等学校遠藤校長自己紹介

6 議事

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

(1) 令和5年度第1回審議会の振り返り

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

ア 学校施設の老朽化等

イ 各種教育上の課題

(3) 「新しい学校のあり方」に関するアンケートについて

資料に基づき、事務局より説明。説明後の委員からの意見及びそれに対する回答は次のとおり。

《以下、委員からの意見及びそれに対する事務局からの回答》

(1) 令和5年度第1回審議会の振り返り【資料3】

(天笠会長)

- ・いろいろな会議の進め方があると思います。前回は振り返る場合、議事録を確認する進め方もあります。今回の説明では、前回の説明内容について再確認したと思いますが、我々の意見について振り返ることも大切なことです。会議ごとにそれら意見を蓄積しながら、会議としての意見を積み上げて残していく、折々に次の会議で確認する、そういう手続きは大切です。次の会議では資料の説明内容とともに、どんな意見が寄せられたかについても確認できるようにしていただければと思います。

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

ア 学校施設の老朽化等 【資料4-1】

(天笠会長)

- ・学校施設、給食施設、通学路の3点について説明がありました。順番に意見をうかがいます。まずは学校施設についてお願いします。

(鈴木委員)

- ・学校の建替えと長寿命化改修について説明を聞いて、今後は、どこの自治体も超高齢化社会になり、子どもの数の減少も顕著になってきます。年間40億円を目安に改修をしていきますが、子どもが減ったときの学校施設の使い方については検討しているのでしょうか。

(天笠会長)

- ・時間等の関係もあり、質問については一括してお聞きします。他にありますか。

(坂本委員)

- ・長寿命化改良工事を行う学校と建替えを行う学校がありますが、それはどのように決めているのでしょうか。また、空調は、どのような優先順位で整備していくのか教えていただきたいです。

(平野委員)

- ・学校施設の老朽化の話がメインだと思いますが、私が所属する田中北小学校は移転した学校です。北部地区はまだ児童生徒数が増加する予測になっていますが、今後、学校施設を新設する予定はあるのでしょうか。

(天笠会長)

- ・学校施設と言っても、教材、教具、施設、設備など幅広いと思いますが、限られた予算の中、施設の老朽化に対応していると思います。昨今は、個別最適な学びが求められています。それと施設面での対応をどう考えていくかも重要だと思います。新しい教育の考え方について施設面からどう対応しようと考えていますか。長期的に変更しやすいのは、教具だと思います。新しいものを採用する場合と、長いスパンで考え継続して使い続けるものがあると思います。例えば、今ある椅子・机はだいぶ古くなっており、机のサイズが小さいと指摘されていますが、子ども達が使っている椅子や机はどうするのか。今日的な教育のあり方を踏まえ、どのように対応するか考えがあればお願いします。
- ・次に、給食について、意見をお願いします。

(古橋委員)

- ・自校給食のメリットは、給食をそのまま直接学校で食べられることだと思いますが、給食センターにもメリットもあると思います。学校の給食施設を改築するよりは、センター方式にしたほうが良いのではないかと考えていると思いますが、それぞれの方式のメリット、デメリットをどう考えているか教えて欲しいです。

(天笠会長)

- ・他に意見がないようであれば、通学路についてお願いします。

(入道委員)

- ・国が示す通学距離の基準について説明がありましたが、通学区域を設定する際にはその範囲で考えるということですか。また、自転車通学の運用は、学校ごとになるのでしょうか。学区外からの通学については、どのように許可しているか教えてください。

(鈴木委員)

- ・スクールバスの資料は、参考になりました。仮に柏市でスクールバスを運行した場合の検討はしているのでしょうか。

(神田委員)

- ・交通安全対策について、柏市あけぼの付近の交通が危ないという意見がPTAから出ています。その対策として、シルバー人材センターの人員を雇用して対応していますが、全てのことをシルバー人材センターに任せるのは難しいため、ボランティアを募りましたが確保ができませんでした。通学時の見守りなどを市として対応して欲しいと考えますが、検討していただけないでしょうか。

(天笠会長)

- ・通学路と安全・安心の関係について、教育課程の一貫として授業で行っているところもあると思います。マップを作ったりして、事前に危険を認知するなどの取組みもあります。そういう話と今日の話を重ねると、どのような現状になるのかなど、そのような説明があると良いと思います。
- ・以上の点について、事務局より回答をお願いします。

⇒ (事務局)

- ・まずは施設面についてです。子どもの数が減少していく中で、学校施設をどうしていくのかは、この審議会で議論する大きなテーマの1つです。具体的には、次回の審議会以降、この点を集中的に審議することを予定しています。30年後には子どもの数が2割減り、40年後には3割減るという予測の中で、クラス替えのできない学年1クラスのみ为学校が、この先、半数近くになると想定されています。このようなことが子ども達の教育環境を第一に考えた場合、このままで良いのかということを考える必要があります。一方で、学校は地域資源としての役割もあり、歴史的な経緯、地域のシンボルでもあるため、慎重な審議をしていくことが必要と考えています。事務局としてのシミュレーションも出しながらこの審議会で議論して進めたいと考えています。

- ・次に、田中北小学校の新設と土小学校の長寿命化改良工事の違いについてですが、田中北小学校では、つくばエクスプレス沿線駅周辺の住宅開発に伴い年少人口が増加しています。増加した児童数を既存の田中北小学校及び田中小学校で受けきることができないため、学校の新設を計画し実施しました。既存の田中小学校や田中北小学校に加えて、新たに小学校を新設する予定でしたが、そのようにした場合、田中北小学校が将来にわたり小規模校化する懸念があったため、既存の田中北小学校を移転し新たに校舎を整備して田中小学校とのバランスをとりました。
- ・今後、北部地区で新たな学校施設を整備する計画は現状ではありません。
- ・スクールバスについては、今後、シミュレーションしたものを審議いただきたいと思います。現状は、通学基準を超える学校はないため市内でスクールバスは運行しておりません。例えば、通学距離が3 km以上の児童を対象にスクールバスを導入するとどのような課題があるかなど、運行方法も様々ありますので、お示した先行事例に意見をいただければと思います。
- ・自転車通学については、各中学校長の判断で実施しています。
- ・学校給食について、自校方式とセンター方式のメリット・デメリットを説明します。自校給食のメリットは、学校敷地内に調理場があるため、小回りが効き、各学校に栄養士がいるため食育の面でもきめ細やかな対応がしやすい点が挙げられます。デメリットとしては、人件費や施設面でコストが高くなります。また、施設を建て替える場合は、給食が止まってしまうことです。給食センターのメリットは、建物が集約されるのでコストが抑えられる点が挙げられます。今後、児童生徒数が減少していくことを考えますと、コスト面のメリットは大きいと思います。デメリットとしては、給食センターを建てる場合は、土地を確保する必要があることです。建てる場所があれば、給食を止めずに建て替えができるため、運用面でもメリットがあります。
- ・施設改修については、既存の施設を対象に、個別施設計画に基づき、40年を10年ごとに区切り改修計画を立てています。土小学校は、長寿命化改良工事を令和3年に実施しました。基本的に、昭和46年以前の建物は建替えを実施することとしており、それ

以外の建物は長寿命化改修または大規模改修などで80年持たせることで施設の更新を進めています。

- ・空調整備については、普通教室の空調は、ほぼ全校に設置済みです。屋内運動場への設置については、今年度と来年度にかけて、すべての小・中学校に設置を進めていく予定です。
- ・個別最適な学びについての施設面の対応としては、教室の大きさは変えられませんが、主体的・対話的な学びの実現、グループ学習などを実施するため、廊下側の間仕切りを可動間仕切りに変えて、廊下も含めた広い空間作りをしています。
- ・通学路の安全対策について補足します。自転車通学については、各中学校長の判断で運用しています。学区外就学者についても個々の学校の対応となっています。危険箇所については、柏第一小学校に限らず、色々な学校で危険箇所があり、これまでも学校、保護者、地域の方で協力して対応していただいています。市としては、各学校の状況について引き続き調査していきます。
- ・学区外就学者への対応については、空き教室の関係もあり、学校ごとに受け入れをある程度制限しなくてはならない学校もあります。市内で転居をしたがもとの学校に引き続き通いたい場合、兄・姉が学区外から通学しており同じ学校に通いたいなどの例については、受け入れを制限している学校においても教育上の配慮から受け入れていきます。

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

イ 各種教育上の課題 【資料4-2】

(天笠会長)

- ・先ほどと同じように「学校規模に関する事項」から「市立柏高等学校のあり方」について、順番に意見ををお願いします。
- ・学校の規模について意見ををお願いします。なければ次に進みますが、後ほど何か意見があったらをお願いします。
- ・次に、いじめに関する説明について意見ををお願いします。

(神田委員)

- ・解消率が高いという説明がありましたが、何をもって解消したと判断しているのでしょうか。

(天笠会長)

- ・続いて、学力について意見をお願いします。

(平野委員)

- ・資料7ページは、柏市独自の学力調査の結果でしょうか。それと関係して資料6ページ、令和4年度に急激に下がったとの解釈で良いでしょうか。資料10ページ、学力学習状況調査をみると令和3年度より令和4年度の数値が高い結果になっていますが、その理由をどのように分析をしていますか。

(天笠会長)

- ・資料で示された学力調査結果は、国の調査か県の調査か教えてください。

(神田委員)

- ・4つのCとありますが、どのような調査をしているのでしょうか。調査の仕方について教えて欲しいです。

(天笠会長)

- ・子どもの居場所について意見をお願いします。

(青木委員)

- ・現在、児童センターが2か所しかなく、徒歩圏に児童センターがない子どもが多いため、児童センターを増やせるのであれば、増やした方が良く考えています。小学生は部活動がないため、ますます放課後の居場所がなく、現状、近隣センターや公園に行っています。図書室や遊び場のある児童センターを設置した方が良くと思います。

(入道委員)

- ・学習支援事業は、市のこども福祉課が実施している事業なのでしょうか。

(天笠会長)

- ・市立柏高校について意見をお願いします。
- ・普通科とありますが、国の方向性を含めて、普通科の見直しや特色化について動きは色々あると思いますが、柏市としての将来構想などはあるのでしょうか。

(古橋委員)

- ・子どもの居場所についてですが、来春から旧そごうアネックス館に、子どもの成長にあわせて利用できる施設が整備されると聞いて

ていますが、現時点でわかっていることを教えていただけますか。

(天笠会長)

・これまでの質問について答えられる質問があればお願いします。

⇒ (事務局)

・いじめについては、スライドの4ページにありますとおり、「心理的または物理的影響が止んでいる状態が3か月継続している。また、心身に苦痛が感じられていない。」ことを解消確認のポイントにしています。また、各学校からは学期末にいじめについてまとめた資料を提出してもらっています。

・子どもの居場所について回答します。子どもの居場所の必要性は理解しています。資料の11ページに「放課後子ども教室」とありますが、これを居場所型へ転換して、平日の毎日、誰でも来られる居場所にしたいと考え、全校実施で整備を行う予定です。これが児童センターの代わりになるのではないかと考えています。

・学習支援事業については、こども部と福祉部で行っています。子ども部は小中学生コース、福祉部で中高生コースを実施しています。

・旧そごうアネックス館に設置する施設については、社会教育会議において、中高生の意見を聞きながら検討中です。建物の内装については設計を進めています。具体的なサービス内容については、今後、社会教育会議等でコンセプトを整えて、年内中に旧そごうアネックス5階に開館したいと考えています。

・学力調査結果についてですが、これは、柏市が独自で行っている学力・学習状況調査の結果を載せています。調査は2種類ありまして、市が実施しているもの以外に、全国学力学習状況調査というものがあります。これは中学3年生と小学6年生が対象で、全国の全ての学校で実施している調査です。

・調査の結果として、令和4年度に極端に下がっている点についてですが、平成26年度から令和元年度は同じ問題を出題していましたが、コロナ禍を挟んで、令和3年度には問題を変更していません。また、これまでは新年度4月になってから調査していましたが、令和4年度からは11月実施に変更し、それに伴い調査会社も変更しています。結果に違いが出る原因として、その辺りの違いがあると考えています。令和4年度は小学1年生から中学2年

生までの結果で，令和5年度は令和4年度と同じ会社で調査しています。

- ・生活・学習意識調査については，オンラインで子ども達が各質問に答える形で実施しています。この他にも，30問程度のテストを実施しています。また，令和3年度からは4つのCの質問項目を変更して実施しています。学力との相関関係については，これから分析を進めていきます。また，意識調査と学力調査は比例していません。
- ・市立柏高校の普通科の特色としては，資料13ページに記載してありますとおり，育てたい生徒像の4項目，第3次教育計画の3本の矢の項目において，柏で育てる，柏を支える市立高校を目指していきたいと考えています。

(3) 「新しい学校のあり方」に関するアンケートについて

【資料5】

(天笠会長)

- ・アンケートについて，何か意見がありますか。

(寺本副会長)

- ・設問数は20問とありますが，こういった構成とするのですか。

⇒ (事務局)

- ・資料に掲載していますとおり，子ども達，保護者，教職員などが将来にわたって学校教育にどのようなことを期待するかを確認したいと思っています。また，施設や学校規模については，どのくらいの規模が望ましいと考えているのか，施設面も含めて確認したいと思います。学校の規模は，通学時間や通学距離にも関係してくるものと考えています。会長からの指摘もありましたが，子ども達が新しい学校施設に何を求めているのか，機能についても確認したいと考えています。

(天笠会長)

- ・このアンケートのことで，この審議会の関係について説明をお願いします。

⇒ (事務局)

- ・アンケートは参考資料として活用する予定です。それぞれの立場

の意見や考えを知るための資料として用い、議論を深めていただきたいと考えています。

(寺本副会長)

- ・アンケートは、意思決定する時の大きな根拠になるため、どういう設問を設定するかが大事です。誘導的にならないように注意が必要です。議論をサポートするような設問を設定して、設定した理由を説明できるようにしておいたほうが良いと思います。

(天笠会長)

- ・実施するプロセス、手順、審議会との関連性を整理した上で実施してもらいたいと思います。

(古橋委員)

- ・集計する際、児童生徒の結果、保護者の結果など、対象者ごとに結果がわかるように整理して欲しいと思います。小・中・高校生ごとの結果や学年ごとの結果などを把握することができた方が、審議を進める上で参考になると思います。

(入道委員)

- ・アンケートの対象は、小・中学生とその保護者、あとは誰が対象になりますか。

⇒ (事務局)

- ・教職員と学校運営協議会委員と考えています。

(天笠会長)

- ・後ほど今後のスケジュールの説明がありますが、いずれ意見を集約して市民に伝える時期がきます。それにあたって、このアンケートをどう位置付けるかも大切なプロセスです。

⇒ (事務局)

- ・アンケートについては、実施する前に、対象者ごとに設問案を作成しまして改めて委員の皆さまに意見を伺いたいと考えています。

(天笠会長)

- ・本日の議事はここまでとします。

(事務局)

- ・第3回審議会は、3月19日(火)の午前10時からを予定しています。次回の審議会では、第1回、第2回で洗い出した学校教育に関する現状・課題を踏まえ、各課題への対応の方向性について

て、第3回、4回、5回で煮詰めていきたいと考えています。引き続きの協力をよろしくお願いいたします。

7 傍聴者

3名

8 配付資料

- (1) 次第 令和5年度第2回柏市教育政策審議会
- (2) 【資料1】教育政策審議会委員名簿
- (3) 【資料2】席次表
- (4) 【資料3】令和5年度第1回審議会の振り返り
- (5) 【資料4-1】市立学校を取り巻く現状及び課題
ア 学校施設の老朽化等
- (6) 【資料4-2】市立学校を取り巻く現状及び課題
イ 各種教育上の課題
- (7) 【資料5】「新しい学校のあり方」に関するアンケート